

菅生中だより

早寝・早起き・朝ご飯 ケイタイ10時OFF

学力特集号

教育目標『一人一人が生き生きと輝き 知・徳・体の調和のとれた生徒の育成』

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	話の論理的構成や展開、話し合いの話題や方向を捉えることを苦手としている傾向にある。文脈に即して漢字を正しく読むことはできるが、正しく書くことを苦手としている傾向にある。	下回っている
国語B	全国平均正答率と同程度である。言語についての知識・理解・技能については上回っている。	同程度
数学A	図形領域については、正答率が全国平均を下回っている。資料の活用の領域については、正答率が全国平均を上回っている。	下回っている
数学B	すべての領域で全国平均より下回っている。数学的に説明したり、論理的に説明したりする問題については、無解答率が高い。	下回っている
理科	分野別の正答率の状況は、全国平均と同じで地学的領域が低い傾向を示しており、正答率は全分野でやや下回っている。記述で解答する問題では、無解答率がやや高い傾向にある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
地域や社会への関心が全国平均より高く半数以上の生徒が地域の行事に参加している。 学習習慣については、全国平均並みに身につけているものは、1日1時間以上勉強している生徒の割合は、ほぼ半数程度でその内容は主に学校の宿題に費やされている。 読書習慣も半数以上の生徒が身につけていない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ①定期テスト前に基礎・基本問題のテストを実施し、課題ができるまで繰り返し挑戦させ、基礎学力の定着を図る。
- ②わかる授業5つのポイントに沿った授業づくりに取り組む。学期に最低1回授業研究を行い、1回は道徳の授業研究を実施する。
- ③毎月、読書週間を設け、読書活動に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ①菅生ノートに取り組ませ、優れたノートを掲示するなどして、ノートの取り方を工夫させる。
- ②放課後学習スペースの「まなびば」を活用し、自習したり、教師に質問したりする場を整え、放課後に学習時間を有効に活用できるようにする。
- ③家庭学習用のプリント等を長期休みや週末等の課題として出し、評価・点検する。
- ④定期テスト前の学習計画表の作成と、計画表に沿った自学学習ができるよう指導する。
- ⑤考査予想問題…定期テスト前に学習委員が作成した予想問題を、家庭での復習プリントに活用させる。

